

# 令和4年度 第1回壱岐市洋上風力発電等導入検討協議会・勉強会 議事要旨

- 日時：令和4年9月26日(月) 13:30～16:00
- 会場：壱岐の島ホール（壱岐文化ホール） 1F 中ホール

## —議事—

### 1. 勉強会

#### 【司会（壱岐市）】

長谷先生のご講演内容について質問等はないか。

#### 【A構成員】

洋上風力発電の先進地である五島市や銚子市、由利本荘市などの地域は、促進区域の指定に至るまでに、どのような問題があり、どのように解決してきたのか。現在、唐津市沖での事業について地元は賛成、その他の地域からは反対という状況にあると聞いている。こうした意見の対立が生じた場合、どのように議論を進めていけばよいのかご教示いただきたい。

#### 【長谷先生】

五島市や銚子市では、初期段階に実証機を導入し、漁業影響や風車による魚礁効果を検証してきた経緯がある。こうした長期的かつ段階的な取組が功を奏し、促進区域の指定まで円滑に進んだのではないかと考えられる。

また、唐津市に限らず、地元とそれ以外の地域との意見の対立は他の事例でもよく見られる。一般海域に洋上風力発電が導入される場合でも、その恩恵の多くは地元が享受することが多く、同じく洋上風力発電導入による影響を受ける周辺地域の漁業関係者への配慮が不足している事例が多いように思う。こうした不公平感が反感や軋轢を生じさせる要因となり、事業の実現を困難にさせていると認識している。

#### 【B構成員】

洋上風力発電施設が共同漁業権の範囲外に建設された事例はあるのか。

#### 【長谷先生】

五島市の場合、計画当初は共同漁業権範囲内であったが、徐々に一般海域へと事業の対象範囲を広げていった。再エネ海域利用法の制度上、共同漁業権範囲外の建設が禁止されているわけではないが、一般海域を利用する漁業関係者と合意形成を図り理解を得ていく必要がある。

#### 【B構成員】

壱岐市の場合、共同漁業権範囲内への導入は一般海域への導入と比較して、漁業への影響が少ないように思う。

また、他地域の先行事例を見ると、共同漁業権範囲内での計画が多いように思う。

#### 【長谷先生】

共同漁業権範囲内への導入であっても、魚道の変化などにより隣接する漁場に影響が生じる恐れがある。一方で、共同漁業権範囲内は「地元の海」との共通認識があるため、周辺地域からの反対意見は比較的出にくい傾向があるように思う。

#### 【B構成員】

漁業権は県の許可であり、他地域からの反対意見がある場合、承認を受けることは難しいように思われる。

また、秋田県の事例では、合意形成を必要とする主体が少なかったことが、早期の事業実現につながったのではないかとと思われる。

**【長谷先生】**

共同漁業権範囲内であっても、隣接する一般海域での漁業に支障が生じると予想される場合には、漁業権者の意向のみが優先されるとは限らない。実際、福島沖での実証事業では、地元以外の漁業者に配慮した条件が盛り込まれたと聞いている。

また、秋田県の場合は比較的漁業規模が小さいため、関係者間の調整が円滑に進んだのではないかと考えられる。

**2. 協議会**

**(1) 協議会趣旨等説明**

**【司会（壱岐市）】**

協議会の趣旨等について質問等はないか。（質問等なし）

それでは、本日の議事に移る。

本協議会の座長は、昨年度に引き続き長崎大学の河邊先生にお願いしたいと考えている。

それでは、以後の進行は河邊会長にお願いしたい。

**【河邊会長】**

規定により以後の進行を務める。事務局より議題について説明を求める。

**(2) 洋上風力発電導入に向けたこれまでの経緯と今後の取組について**

**【河邊会長】**

事務局からの説明について質問等はないか。

**【A 構成員】**

今年度のスケジュールのうち「④ 発電事業者との意見交換会」について、導入可能性エリアの設定にあたっては、発電事業者の意見を盛り込み事業性を確保するとあるが、漁業関係者の意見を踏まえつつ事業性を確保していくということか。

また、「③ 地域住民等への周知、意見把握」について、各漁協の意見交換会の内容は、その他の漁協にも周知し、それぞれの漁協の見解や意見を共有することが望ましいと考える。

**【事務局（国際航業）】**

導入可能性エリアの抽出にあたっては、漁業関係者の合意と事業性の確保の両方が必要となる。漁業への影響を避けつつ採算性が確保できる海域を抽出することで、両者が共存共栄できるよう調整していくことが重要である。

また、ご意見のとおり、各意見交換会で出た意見や見解の共有は有意義であることから、今後も各漁協への情報発信に努める。

**【事務局（国際航業）】**

今年度は、県事業で抽出された候補エリアを見直し、導入可能性エリアを抽出していく計画としているが、現在の候補エリアには、他地域の漁業者への影響が比較的少ない共同漁業権範囲内が含まれていない状況にある。よって、本年度の検討では、共同漁業権の範囲内も検討対象に含め、導入可能性エリアの抽出を目指していきたいと考える。

**【E 構成員】**

洋上風力発電の導入は壱岐市にとって転換点となる大事業になるのではないかと考えている。このため、漁業関係者やその他先行利用者はもちろんのこと、一般市民への周知も十分に行い、理解を得ながら検討を進めていくべきと考える。例えば、市の広報紙を活用し、連載形式で情報を発信するのはどうか。

また、洋上風力発電導入による恩恵を持続的に活用できるよう見通しを立てることが重要と考える。

### 【事務局（壱岐市）】

一般市民に向けた情報発信としては、現在、シンポジウム形式の意見交換会の開催を検討している。一方、理解醸成には更なる情報の発信が必要になると考えられることから、市報などを活用し、市民目線のわかりやすい解説を交えながら、壱岐市が目指す洋上風力発電導入の在り方を示していきたい。

### 【C構成員】

洋上風力発電の導入により最も影響を受けるのは漁業であり、事業の推進には漁業関係者の理解が必須と考える。我々の立場としては、自分たちの漁場を守り、将来に漁業を引き継いでいかななくてはならない。また、漁業者の中には、島の周辺に風車が建つと漁場が狭まってしまうとの危機感がある。風車には魚礁効果が期待できるとの話もあるが、我々が対象とする魚種は回遊魚であり、一定の場所に留まるものではない。国としても洋上風力発電の導入を推進しようとしているが、こうした漁業関係者の苦しみや懸念を理解し、意見が十分反映されるよう検討、議論が行われることを望む。

### 【事務局（国際航業）】

洋上風力発電導入に伴う影響が全くないということは無いと考えられる。漁業への影響を適切に評価する仕組みを検討していきたいと考える。

### 【D構成員】

今年度事業のスケジュールを見ると令和5年1月に導入可能性が設定されるとあるが、漁業関係者との十分な対話の機会は設けられるのか。郷ノ浦漁協では、今年度既に1回意見交換会が開催されたが、今後も継続した意見交換会の開催を望む意見が多い状況にある。候補エリア③は、魚礁の設置箇所などが点在しており、漁業への支障が大きいと予想される。当組合としても、更なる意見交換会の開催を望む。

### 【事務局（壱岐市）】

今後も継続して意見交換会を開催していく予定である。日程調整等でご協力いただくことになると思うが、ご了承いただきたい。

### 【河邊会長】

導入可能性エリアの抽出においては、漁業関係者の意見の把握、反映が重要となる。十分な対話の機会が設けられることを望む。

### 【長谷先生】

今年度のスケジュールのうち「② 先行利用者との個別調整」について、同時並行的に壱岐島外の漁業関係者との調整を進めることが重要と考える。先ほどの資料説明では、並行して島外の漁業関係者とも協議を進めるとの補足があったが、資料には、壱岐島外の漁業関係者との調整は、島内の漁業関係者及びその他先行利用者との協議、調整後に実施すると記載されており、誤解を招く要因になり得る。資料の修正が難しいならば、議事録として、補足の内容を適切に記録し、不要な混乱、誤解を招かないよう配慮する必要があると考える。

また、同様に、今年度の導入可能性エリア抽出の方針について、現在の資料では、既存の候補エリアを基に検討を進めるように見えるが、実際は、共同漁業権範囲内も含めて検討を進めていくとの説明があった。こちらについても、不要な混乱、誤解を招きかねないことから、適切な配慮が行われることを望む。

### 【河邊会長】

他事例でも、地域の理解は得られたが、他地域の理解が得られないために洋上風力発電導入に向けた協議が難航するという例が見られる。

一般海域で洋上風力発電の導入を進めた場合、当該海域を利用する他地域の漁業関係者の操業に影響を及ぼす恐れがある。このことから、地域での合意形成を進めるとともに他地域への情報共有を並行して行い、両者の意見を把握しながら、段階的に検討を進めていくことが重要と考える。

**【事務局（国際航業）】**

ご意見、ご指導を踏まえ、可能な限り島外の漁業関係者を含めた県内外の関係者とも協議を進めていきたいと考える。

**【B構成員】**

導入可能性エリアの設定に際しては、発電事業者の意見も重要となる。こうした観点から発電事業者にも協議の場に参加してもらうことが望ましいと考える。

また、一般海域に洋上風力発電を導入する場合、県の許可が必要になると予想されるが、反対意見が出ている中、県からの許可が下りるとは考えにくい。現況では、反対意見を持つ他地域と協議の場を設けること自体が困難な状況にある。おそらく、県や市からの接触だけでは、現状の打破は難しいのではないだろうか。こうした状況からも、発電事業者の協力を得ながら話を進めるのが望ましいのではないかと考える。

**【河邊会長】**

導入可能性エリアの抽出においては、漁業や環境への影響に配慮しつつ、いかに事業性を確保していくのが課題になると思われる。非常に難しい課題ではあるが、壱岐島外を含めた漁業関係者及び発電事業者の意見、環境への配慮を両立しながら、検討を進めていく必要がある。

**【事務局（国際航業）】**

ご指摘の通り、漁業影響及び環境影響への配慮、事業性の確保が両立されるよう検討を進めていきたいと考える。

**【F構成員】**

漁業関係者と同様に、一般市民の理解も重要であると考えている。洋上風力発電の導入により新たな仕事が増えることで、求職者やその他の交流人口が増加し、経済が活性化するのではないかと期待している。人口減少や経済衰退など様々な課題を抱える壱岐市にとって、洋上風力発電導入は絶好の機会になるのではないかと考えている。漁業関係者の方々にもご理解いただき、是非とも導入を進めていただきたい。

**【C構成員】**

候補エリア①の中央を分断する形で、九州郵船の航路が横断している。また、航路が横断する海域には海砂採取が行われている海域が存在している。海砂採取が実施されている海域は漁場的な価値が低く、こうした海域に洋上風力発電を導入すればよいのではないかと考える。海域の有効利用という観点からは、航路筋の変更が望ましいと考える。

**【河邊会長】**

様々な意見を反映しながら、よりよい検討が行われることを望む。

**【B構成員】**

洋上風力発電の導入は地域活性化に繋がると期待している。漁協を含め島内では人口減少が進行しており担い手が不足するのではないかと懸念している。これは、漁業関係者だけの問題ではなく、壱岐の将来に係る問題であると考えている。

以 上